

阿波木偶 福を運ぶ人形 箱まわし

2019
11/10 日

- 金刀比羅神社 徳島市川内町宮島本浦128
13:00～「三番叟まわし」奉納
- 阿波十郎兵衛屋敷 徳島市川内町宮島本浦184
14:00～定期公演「傾城阿波の鳴門」
15:00～特別公演「阿波木偶箱まわし」

お問い合わせ／徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
Tel.088-665-2202、Fax.088-665-3683
mail/awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp
料金／一般410円、高・大310円、小・中200円



特別展

阿波の門付け用具

11/2 土 → 11/10 日

「三番叟まわし」や「えびすまわし」の門付けに使用された衣装人形、運搬のための木箱や天秤棒、御幣や神札などの資料を展示するほか、三番叟まわし等の活動エリアや期間など、4年間に渡る調査結果をご覧ください。

阿波木偶箱まわし——福を運ぶ人形

地域の信仰を支える人形

徳島では、年の初めに三番叟まわしの人形が1年の福を運びます。

漁師町にはおいべっさんの人形が大漁祈願に訪れ、お彼岸には農業の神様「地神さん」に三番叟を奉納します。

神社の境内の農村舞台では、鎮守の神様に人形芝居を楽しんでもらうなど、今も人形が地域の人々の信仰を支えています。



宮島金刀比羅神社

徳島市川内町の宮島金刀比羅神社は、徳島市勢見町、鳴門市撫養町木津の金刀比羅神社とともに徳島県下三金刀比羅と総称されています。

御祭神は大物主命（オオモノヌシノミコト）。毎年11月の第2土曜日、日曜日に秋祭りが行われています。

1601年の創建と伝えられ、「宮嶋金毘羅神社縁起絵巻」（徳島市指定有形文化財）には、神社草創の由来や、祭礼の次第がまとめられています。

海上交通の守り神でもあり、境内に残る石造りの大灯籠は、かつて藍玉を運ぶ船の目印になりました。

「三番叟まわし」と「箱まわし」

阿波木偶「三番叟まわし」

徳島県の正月儀礼として永く定着した「三番叟まわし」は、三番叟とえびすが「五穀豊穰」、「無病息災」、「家内安全」などを予祝し、新しい年を迎えた人々に明るい展望と生きる勇気を与えました。

徳島県のみならず香川県や愛媛県の正月にもなくてはならない文化となりました。しかし、さまざまな理由により1960年代にはその姿をほとんど見るができなくなったのです。

阿波木偶「箱廻し」

箱廻しは、芝居小屋や農村舞台で演じられた『絵本太功記』や『傾城阿波の鳴門』などの人気外題を路傍で簡易に演じた大道芸です。箱廻し芸人は、2人か3人が一組になり、ふたつの木箱に数体の木偶を入れ、天秤棒で担いで全国を移動し稼ぎました。木偶を一人で操りながら浄瑠璃を語ります。

全国の農山村に阿波系の人形文化を運び、各地の人形芝居に大きな影響をあたえました。

阿波木偶箱まわし保存会

阿波木偶箱まわし保存会は、「三番叟まわし」や「箱廻し」をはじめ、徳島県独特の祝福芸や門付け芸等の無形民俗文化財調査研究を目的として1995年に発足。東みよし町の「三番叟まわし」芸人に弟子入りし正月の門付けに3年間同行して技術を習得。2002年から師匠の門付け先を受け継ぎ徳島県内で門付けを行っている（2019年現在 1,060軒）。また、「三番叟まわし」「箱廻し」「えびすまわし」「大黒まわし」等の調査・伝承活動にとりくみながら、国内外で講演・公演を行う。

